令和８年度小平市立小平第五小学校～「全国学力・学習状況調査」結果概要～

１　調査目的・対象

児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、今後の児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるための調査です。

２　調査内容

（１）教科に関する調査

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等、また、知識・技能を実生活の様々な場面で活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関することを児童が答える調査です。

（２）生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関することを児童が答える調査です。

３　各教科の調査結果の分析

【国語】

状況の分析	課題
全体的に、全国・東京都の平均より高く、特に「A 話すこと・聞くこと」の領域では、東京都の平均より７ポイントも上回った。一方で、「C 読むこと」の領域では、東京都の平均より低い結果であった。	書くことの問題では、無回答率が 23%であった。分析により、読む問題を理解することに時間がかかり、書くことの問題までたどり着かなかったことが分かった。今後、文章から読み取ったことを書く活動を取り入れていく必要がある。

学校で取り組む具体的な改善策

文章を読むことに苦手意識を抱いている児童が多いため、朝読書を通して本を読む習慣を身に付けたり、音読の量を増やしたりしていく。これまで、読み取ったことから自分の考えを表現する時間を十分確保してきたが、条件に合わせて書くということはあまりしてこなかった。２学期から、早く読めるように、読みとる時間を決め、条件に合わせて自分の考えを書くという活動を授業内で取り入れていく。

【算数】

状況の分析	課題
「C 変化と関係」の領域以外において、全国・東京都平均を上回った。また、思考・判断・表現に関わる問題では東京都平均より 2.3 ポイント低く、記述式の問題では 53.3 ポイントと、他の問題形式と比べて低い結果であった。	単位量あたりの大きさを求める除法の式の意味や式を数直線に表すことの理解が定着していないことから、苦手意識を感じている児童が多い。その結果、割合を求める式を立てる際にも、数直線を使って式の意味を説明することに課題がある。

学校で取り組む具体的な改善策

・割合の意味やそれを活用した問題についての復習を重点的に取り組む。また、３学期の授業や家庭学習を使って復習に取り組み、中学進学に向けて定着を図っていく。
・自分の考えを自分の言葉で説明し、思考のプロセスを共有したり評価し合ったりできる場面を意図的に設定していく。

【英語】　　状況の分析

「英語の勉強が好き・得意」と答えた児童は、６割を超えており、特に「得意」と答えた児童は東京都平均を 5.7 ポイント上回っている。一方で、授業以外で英語を使う機会は、東京都の平均を６ポイント下回っている。

課題

英語の学習については、好き・得意・課題に取り組んでいる児童が平均より多い状況にあるが、英語の使用に関しては機会がなかったり、将来の職業としてイメージがもてたりしていない。英語を使う・使うイメージをもつことに課題がある。

学校で取り組む具体的な改善策

TGG などの校外施設や「イングリッシュ・キャラバン」、国際交流コンシェルジュを通した海外の小学校とのカード交流など東京都の施策を活用し、実際に英語を使用する機会を増やし、英語を使う事への意識を高める。配置されているＡＬＴと少人数で話す機会を計画的に設けたり、外国語専科と授業外でも日常的に英語であいさつを交わしたりして生活の中で使うようにする。また、学習の振り返りの中で、今後どのような場面で学習した英語を使えそうかイメージをもてるような機会を意図的に設ける。

【質問紙】　　状況の分析

ICT を多く使っていることから、ICT を上手く使うことに対して、自信をもっている児童が多いことが分かる。また、人と違う意見を言っても否定されないと思っている児童が、東京都の平均よりも 10 ポイント以上多い結果となった。

課題

授業内容を見直し、復習していている児童が東京都と比べると６ポイント低い。また、学んだことを、次の学習や実生活に生かしている児童が東京都より 10 ポイント以上も低い。そして、友好関係も良く、先生に自分の良さを認められていることを実感しているが、自己肯定感が低いことが課題である。

学校で取り組む具体的な改善策

家庭学習の習慣化、学力が定着するように、自主学習の宿題を多く取り入れる。また、復習することの大切さを実感できるように、できる限り、授業内で振り返る時間を確保する。学んだことをこれからの実生活でどのように生かしていくか書く活動を単元の最後に取り入れ、学ぶ意味を実感できるようにする。

自己肯定感を上げるために、道徳の時間や学活の時間で、自分を見つめたり、友達に良いところを書いたりする活動を取り入れていく。